

(3) 授業改善策の提案

単元を通して生徒が自律的に学ぶ学習課題を設定し、「考えながら読む」授業へ

本研究では、学習状況調査の解答の分析結果を基にした国語科で育成する資質・能力を整理し、検証授業通を通して授業改善に取り組みました。

国語科では、単元を通した言語活動を設定し、単元を通して資質・能力を育成する必要があると考えます。単元とは、生徒の興味・関心、実態や問題意識を見据えながら組織し、授業者によって構成された学習活動です。言語活動を通して言語能力を育成する国語科では、単元全体を通した授業改善の視点をもつことが必要です。

そこで、本研究では、単元を通して生徒が自律的に学習を進める学習課題を設定し、場面ごとに詳細な読解を行う授業ではなく、自らの課題の解決に向けて「考えながら読む」授業を目指す授業改善策を提案しています。

授業改善の柱1

単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

授業改善の柱2

生徒の思考に沿ったワークシートの工夫

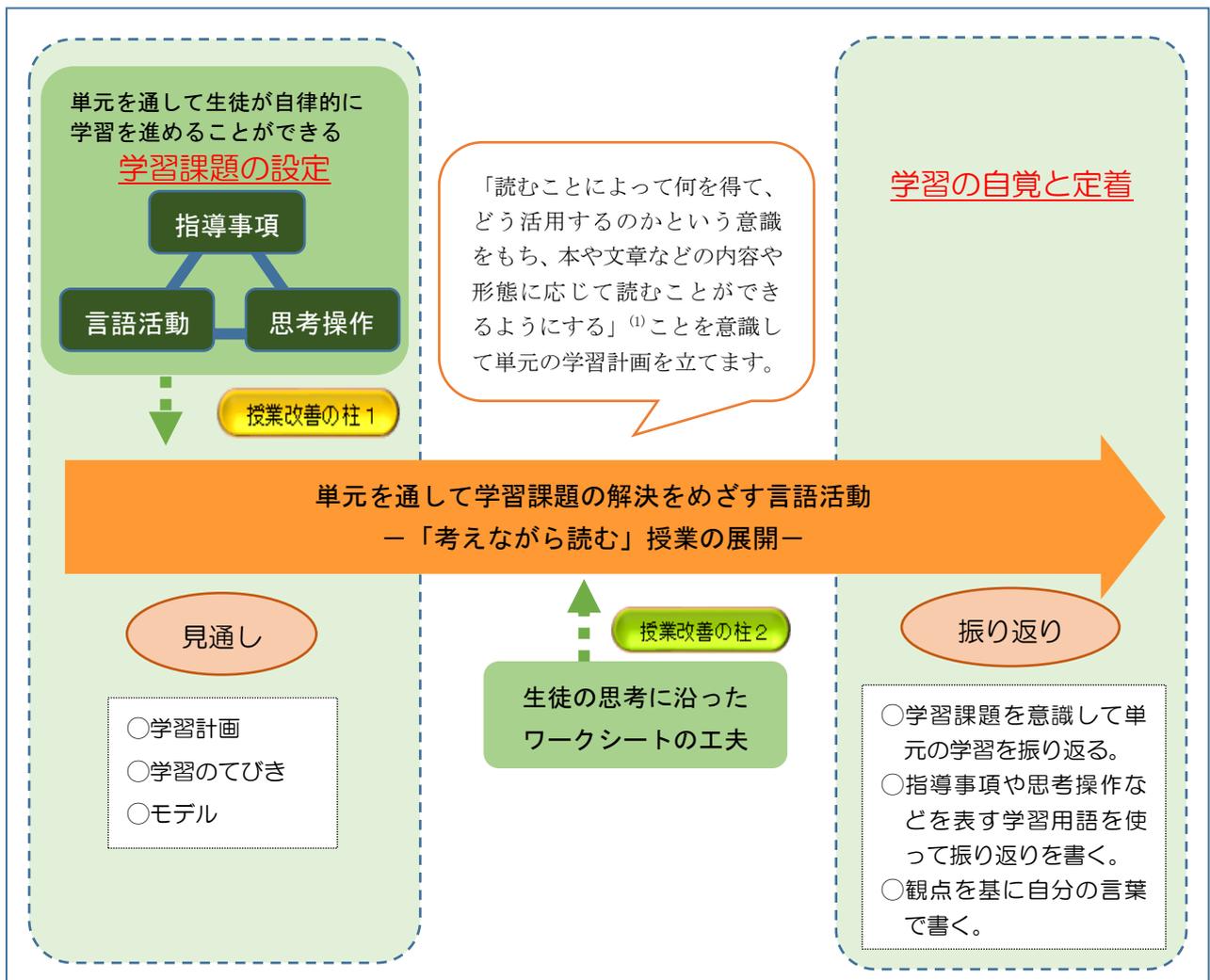


図1 授業改善の柱を基にした本研究における単元づくりの考え方

ア 授業改善の柱1 単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

■単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定し、目的や意図に応じて文章を読ませる指導

生徒が学習活動への興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むために単元を通した学習課題を設定します。単元を構想する際には、生徒に身に付けさせたい力（指導事項）を明確にし、その指導事項を指導する上で有効な言語活動を位置付けます。言語活動は、身に付けさせたい力を付けるための手段です。言語活動を通して思考、判断、表現しながら、生徒は指導事項に示された力を身に付けていきます。単元の導入では、身に付けさせたい力、単元のゴールを示し、生徒が見通しをもって学習を進められるようにします。

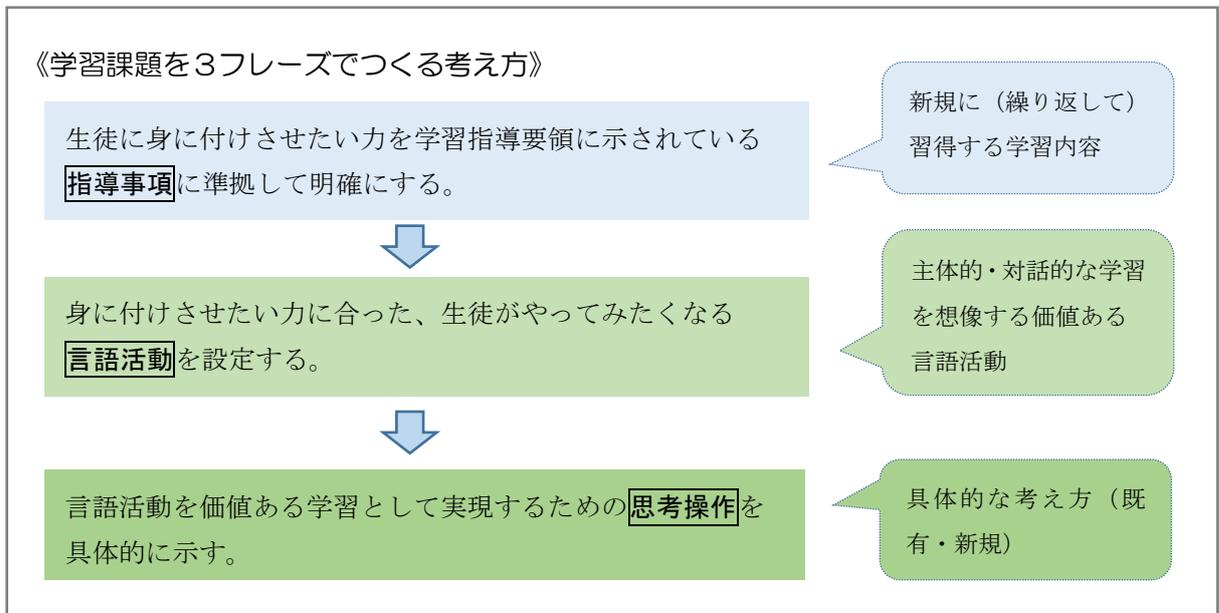


研究2年次に手立ての具体化を図りました。

■3フレーズ（指導事項・思考操作・言語活動）の学習課題でつくる見通しのある単元構想

本研究のアドバイザーである佐賀大学教育学部の達富洋二教授より学習課題について御助言を頂きました。生徒が、国語科で育成を図る資質・能力を意識して学習を進められるように、学習課題の中に「指導事項」「思考操作」「言語活動」を示します。3フレーズの学習課題の考えを基にして、生徒が自律的に学習を進めることができる単元を構想しました。

- * Aフレーズ・・・習得する資質や能力　〔指導事項〕
- * Bフレーズ・・・考えるための方法　〔思考操作〕
- * Cフレーズ・・・実際にする活動　〔言語活動〕



《3フレーズでつくる学習課題の例》⁽²⁾（中学校3年）

指導事項 -A-について（を）

「故郷」の場面や登場人物の設定についての自分の考え

思考操作 -B-して

場面の順序を変えて意味を比較したり人物どうしを対比したりする

言語活動 -C-する

新聞の投稿欄の投書返書のように書く。

学習課題

「故郷」の場面や登場人物の設定についての自分の考えを、
場面の順序を変えて比較したり人物どうしを対比したりして、
新聞の投稿欄の投書返書のように書く。

佐賀大学 達富洋二教授 「学びどき・教えどき」 2017年2月 ver.044 より引用

Check

達富教授の学びどき・教えどき

① 学習課題・学習計画

↑ **ここをクリック!**

おすすめコンテンツで紹介しています。



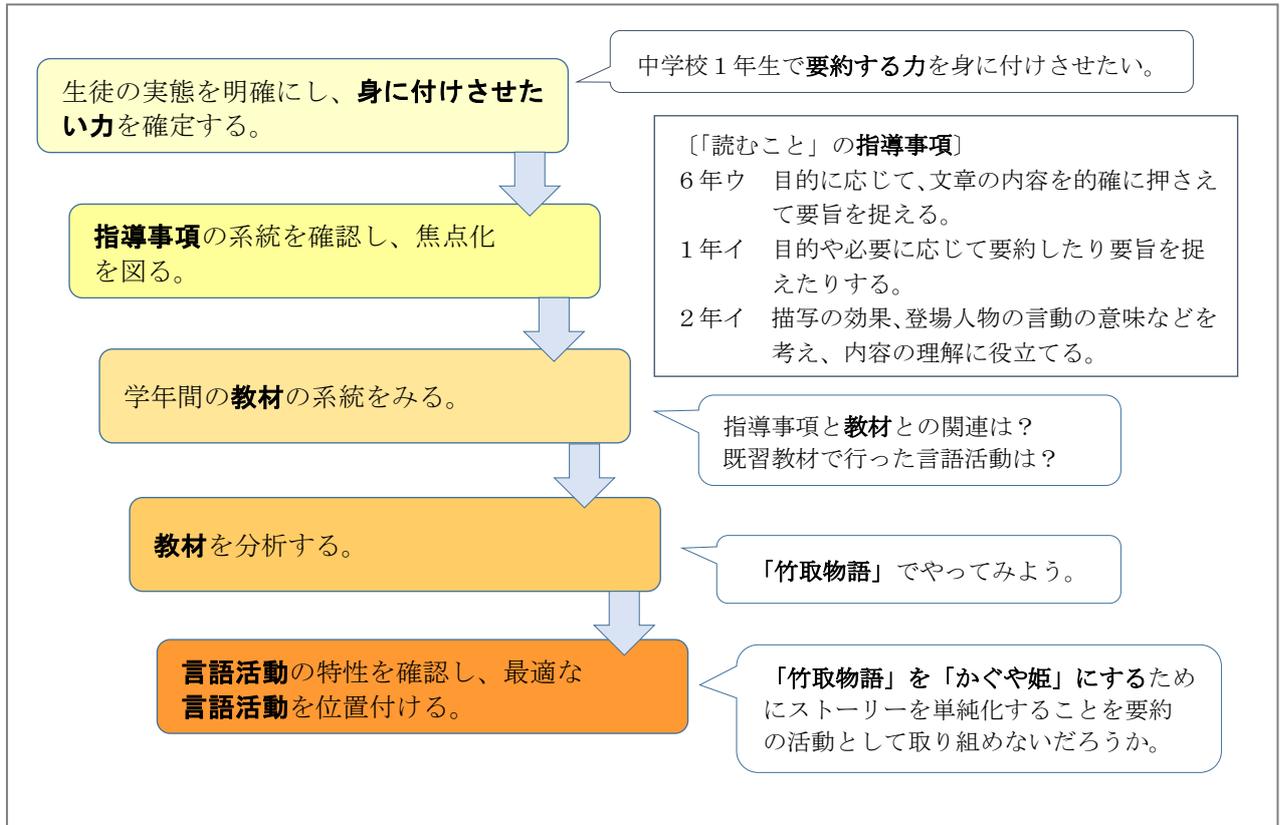
授業改善の柱1のための単元づくりの過程

《単元づくりの過程》

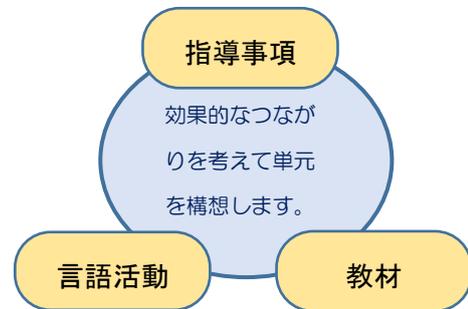
- ① ゴールのイメージをもつ
- ② 学習のプロセスを設計する
- ③ 目指す生徒像の具現化

単元づくりの過程 ① ゴールのイメージをもつ

単元の学習を通して、どのようなことができるようになればよいのか、単元のゴールにおける生徒の姿を具体的にイメージします。



単元を構想する際には「指導事項」「教材」「言語活動」が効果的に結び付いていることが重要です。言語活動は生徒に身に付けさせたい力（指導事項）を付けることに適したものか、その言語活動は生徒が夢中になって取り組むことができるものなのか、という視点を持ちます。また、教材はその言語活動を成立させることができる教材なのかという視点も大切です。



単元構想具体化のポイント

「学習用語」を生かした指導

生徒に身に付けさせたい力（指導事項）を焦点化することは、「学習用語」を意識した単元計画を立てることにつながります。「学習用語」は、生徒自らが習得し、活用することをねらった用語です。生徒が単元を通して学ぶ過程で、言語活動を支える用語となったり、文章を読む「具体的な方法」になったりします。「学習用語」の意味や用法について、生徒と教師が共通した認識をもち、言語活動の体験を通して習得をさせることを単元の中に位置付けます。



生徒

身に付けなければならない力が明確になります。

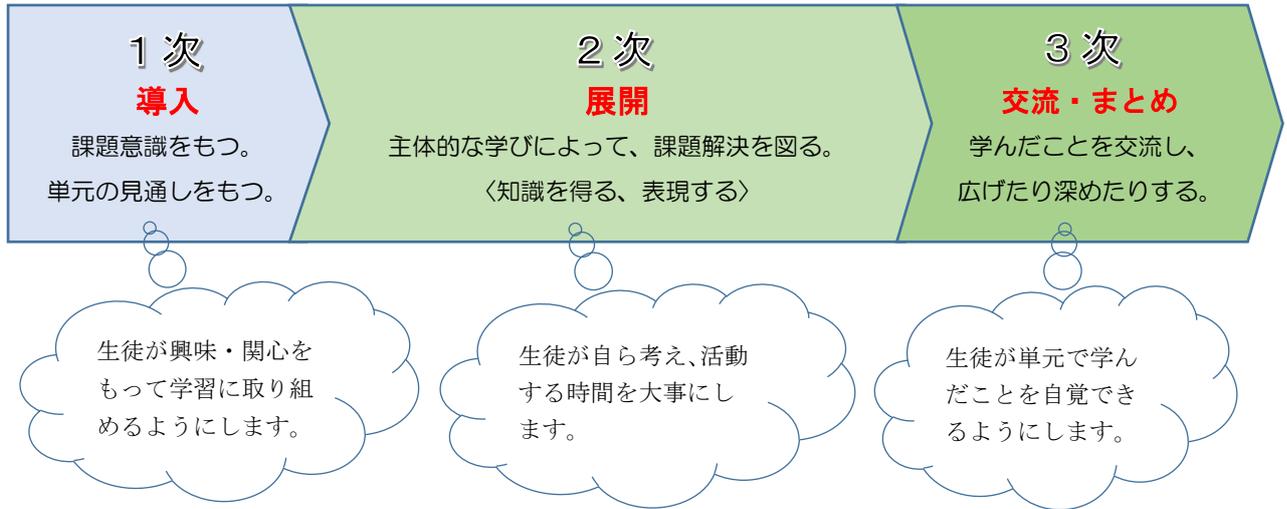


教師

学習の系統性を意識した指導につながります。

単元づくりの過程 ② 学習のプロセスを設計する

生徒の主体的な学びを実現するために、単元を以下のように3次で構成し、学習の過程を意識した単元を構想します。



Check

達富教授の学びどき・教えどき

② 言語活動の設定

③ ふみ込んだ課題

↑ ここをクリック! ↑

おすすめコンテンツで紹介しています。



単元構想具体化のポイント

複数教材を用いた指導

文章を読んで、書かれている内容や表現の特徴について自分の考えをもつためには、複数の文章を読んで必要な情報を得たり、読み比べて内容や表現の特徴を比較したりすることが効果的です。また、単元の導入で、新聞や本のポップなどを言語活動のモデルとして示したり、既習教材を学習用語の共通理解や既習事項の振り返りに用いたりすることで、単元の見通しをもって学習に向かわせることができます。

学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会答申での具体的な改善事項の中で、国語科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するための視点として、「子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること」⁽³⁾が挙げられています。教科書の教材だけではなく、関連する本や資料、新聞やチラシなど身近にあるものを学習教材として用い、国語科で育成すべき資質・能力を身に付けさせていくことがこれまで以上に求められています。



単元づくりの過程 ③ 目指す生徒像の具現化

単元のゴールとなる言語活動において、どのような生徒の姿や作品を期待するのか具体的な基準をもちます。

〈例〉

- ① 物語を簡単にするコツから2つ以上のコツを使って、原稿用紙2枚のリライト作品を仕上げている。
- ② 幼い読者に向けた作品ということ意識して、言葉を言い換えたり、描写を工夫したりしている。

富山哲也は、「国語科で求められている言語活動は、単元の冒頭から終末に至るまで、どのような課題を解決するために学習するのかを明確にする活動」⁽⁴⁾と述べています。活動のイメージを単元の冒頭から示すことで、生徒は単元のゴールに向けて学習の見通しをもつことができます。このように「単元を通して課題解決をめざす活動（＝国語科における言語活動）が、生徒の主体的な学習を促すとともに、思考、判断、表現の場」⁽⁵⁾になるとも述べています。

単元構想具体化のポイント

条件設定を明確にした指導

単元を通して生徒が自律的に学んでいくためには、生徒自身が単元のゴールのイメージをもち、学習の見通しをもつことが大切です。具体的な条件や評価の規準が、文章の内容を読み取ったり、自分の考えをまとめたりするための手掛かりとなります。例えば、単元の導入で言語活動のモデルを示すことで、生徒が自分の考えをまとめたり表現したりする際の条件が明確になります。条件とは、「文章の様式（意見文、コラム、新聞の投書など）」、「文章のサイズ（字数制限）」、「書き方（自分の立場や根拠を明らかにする、引用をするなど）」などを指します。その条件に従い、自分の考えをまとめたり、書いたりする学習場面を日頃の授業で設定し、思考力・判断力・表現力が高まるように指導します。



Check

達富教授の学びどき・教えどき

④ 教師の模擬学習（評価規準の設定）

⑤ ふりかえり

↑ **ここをクリック!**

おすすめコンテンツで紹介しています。



イ 授業改善の柱② 生徒の思考に沿ったワークシートの工夫

■文章を読む視点を基に分析的に読ませる指導

目的や意図に応じて文章を読む手立てとして、文章を読む視点を定めて作品を読ませます。段落や場面で作品を区切って読むのではなく、この視点を基に文章全体を通して分析的に作品を読むことができるように指導を行います。

(例)「カメレオン」…行動、言葉、外見、他の人の態度を視点にして文章全体を通して読む。



研究2年次に手立ての具体化を図りました。

■思考ツールを活用したワークシートの工夫

思考ツールとは、頭の中にある考えやその過程を視覚的に表し、思考を助けるツールのことです。考える手順やそれをイメージさせる図のことを指します。

本研究では、文章を読んで、書かれている内容を整理したり、整理した内容を基に自分の考えをまとめたりするために思考ツールを活用したワークシートを作成します。

〈本研究で活用した思考ツール〉

- ・ Xチャート・・・多面的に見る、多角的に見る、焦点化する
- ・ ステップチャート・・・順序立てる、計画する、構造化する、要約する
- ・ 問題解決ボックス・・・分析する、関係付ける
- ・ マトリックス・・・分類する、整理する、比較する
- ・ クラゲチャート・・・理由付ける、関係付ける、要約する
- ・ XYチャート（座標軸）・・・一般化する、関係付ける

黒上晴夫らは、思考ツールの役立て方⁽⁶⁾を以下のように示しています。

- ① アイディアや問題を視覚化するため
- ② 考えや情報を整理するため
- ③ 考えをすぐにフィードバックするため
- ④ 学んだこと同士のつながりを明確にするため
- ⑤ 意見を友達同士で共有するため
- ⑥ 知識を新しく作りあげるため
- ⑦ 考えを評価するため

引用：黒上晴夫・小島亜華里・秦山裕「シンキングツール～考えることを教えたい～」2012

思考の類型については、多くの研究者が提唱しています。例えば、櫻本明美は、論理的思考は物事の関係付けに働くとして、「比較する力、順序をたどる力、類別する力、定義づけする力、原因や理由を求める力、推理する力」⁽⁷⁾を小学校で必要な思考力として提案しています。勝見健史は、国語科の学習を深める汎用性のある論理的な「思考のすべ」⁽⁸⁾として「比較、類別、分析、理由付け、推論、解釈、具体化・一般化、評価・批判」⁽⁹⁾が必要であるとしています。

『中学校学習指導要領解説国語編』（平成20年）の指導事項の解説にも、このような思考力を指し示す言葉を多く見ることができます。例えば、話すこと・聞くことの領域だけでも、次のような語があります。「整理する、関係に注意する、考えをまとめる、予想する、比較する、判断する、

考えを広げる、別の視点から考える、評価する、客観的に把握する、振り返る」。

本研究では、先行研究と『中学校学習指導要領解説国語編』や、『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～』【中学校版】（平成24年）を中心に中学校で生徒に身に付けさせたい思考力を次の8点にまとめました。

- | | | | |
|--------|-------|----------|----------|
| ①比較・分類 | ②関係付け | ③理由付け | ④分析・総合 |
| ⑤選択 | ⑥推論 | ⑦具体化・一般化 | ⑧評価・振り返り |

また、これらの思考力を身に付けさせるためのツールとして、黒上らが提唱したシンキングツールを援用したワークシートの開発を行いました。

例えば、実践事例5の単元では、学習材「哲学的思考のすすめ」から筆者が述べる哲学的思考法をまとめるために、⑦の具体化・一般化のワークとしてクラゲチャートを用いたワークシートを作成しました。

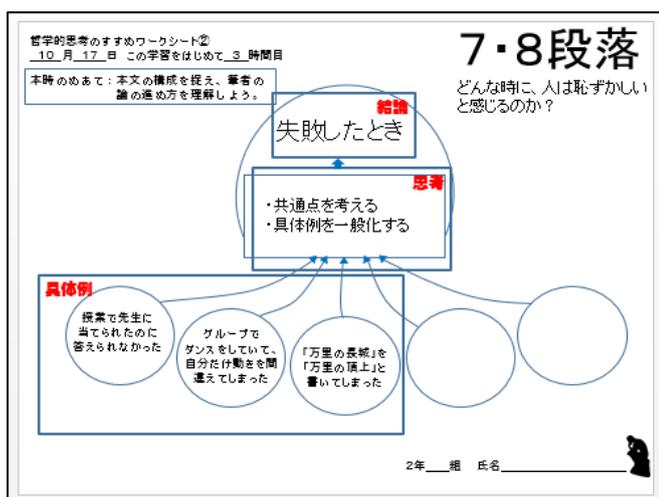


図2 クラゲチャートを用いたワークシートの例

このような思考ツールを繰り返し学習の中で用いることで、生徒は自然に具体から抽象、あるいは、その逆の思考法を身に付けることができます。実際、単元では段落のまとまりごとに3回、このワークシートを用いました。3回目になると、生徒は本文中の語句を的確に抜き出して図にまとめることができていました。

こういった学習を重ねることが、生徒の思考力を高めることにつながります。また、このような思考力は、国語科に限定されるものではなく、他の教科や領域でも生かせるものだと考えます。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』 平成20年9月 p.35
- (2) 達富 洋二 「学びどき・教えどき」 ver.044 2017年2月
- (3) 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」 平成28年12月
- (4) (5) 富山 哲也・杉本 直美編著 『中学校国語科 単元を通して課題解決をめざす言語活動プラン15』 2015年 東洋館出版社 p.7
- (6) 黒上晴夫・小島亜華里・秦山裕 「シンキングツール～考えることを教えたい～」 短縮版 2012年 NP

- 法人学習創造フォーラム p. 4
- (7) 櫻本 明美 『説明的表現の授業』 1995年 明治図書 pp.22-24
- (8)(9) 勝見 健史 「『思考のすべ』を活用する論理的な解決プロセスを」 教育科学国語教育
11月号 2016年 明治図書 pp.36-39